

千秀だより

横浜市立千秀小学校

5月号

平成29年(2017)5月 1日



学校行事に子どもの力を育成する。

校長 市川 幸男

5月の声を聞き、少しずつではありますが、初夏の様相を感じるようになってきました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。学校では、始業式、入学式、学級名発表、発育測定、各種健康診断…と、年度はじめの行事を体験することによって、新たな年度を迎える気持ちを実感し、希望に満ちたスタートが切ることができました。1ヶ月が過ぎ、子どもたちは、新たな学級や学年で落ち着いた学校生活を送っています。どうか、家庭や地域でも、子どもたちの今までにないよさや頑張る姿を見つけられたときには、大いに認め、励まして頂きたいと思います。よろしくお願ひします。

さて、5月は「全校遠足」「運動会」と子ども達が心待ちにしている行事が設定されています。いずれの行事においても、子ども達にとって、価値あるものであってほしいと希望していますが、その遠足もずいぶん、時代によって様変わりしてきました。私が小学生の頃は、1～2年生で4～5km、高学年では7～8km程、とにかく歩いたという思い出が残っています。しかも私が田舎に住んでいたこともあってか、目的地が現在のような遊園地や公園というわけではなく、単純に海、あるいは山といった場所で、2列に並んで3時間ほど、ひたすら歩いたものでした。中には、途中疲れ果て、お昼の場所に着いたとたん座り込んで、せっかくのおにぎりを食べるのできなくなった子もいました。また、ふざけあって道路いっぱい膨らんで、先生に叱られた思い出もあります。それが時代とともに姿を変え、私が教師になった頃はバスや電車といった交通機関を使い目的地に行き、そこで楽しむという姿が主流となっていました。どちらが良いかと一概に比較するものではありませんが、当時のような歩くことが主活動の遠足は、今の交通状況やその他の安全にかかわる配慮などから、できないことかなと思います。それでも何か、かつての遠足の姿にノスタルジアを感じるところがあるのは、私だけでしょうか。そもそも遠足は、学習指導要領の中で特別活動として実施される学校行事の一つであり、「遠足・集団宿泊的行事」として位置づけられています。遠足には、普段の学校生活を離れて、自然や文化、現実の社会や歴史に生で触れるという目的と、クラスメイトや引率の教師たちと集団行動を共にするという目的、お互いの理解と連帯感を持ちあうという目的が設定されています。今年度、本校の全校遠足は、ズーラシアに参ります。目的地であるズーラシアまでは貸し切りバスで移動となりますが、現地で思い切り歩くことを体験させてみようと思います。新しくアフリカのサバンナ地区がオープンし、かなり広くなった動物園を、縦割り班の構成で、高学年が低学年の面倒を見ながら、自分たちの計画したコースを踏破する中で、互いに助け合い、励まし合って、集団として連帯感を高めていってくださることを期待しています。

運動会においても同様のことが言えます。できあがった形としての運動会当日の競い合いや真剣な表現も価値があるのですが、形を創りあげるまでの過程の中で、子ども達が何を問題とし、自分の力や友達と協力して解決したり、技能を高めあったりする姿にも、大きな価値があります。全校遠足・運動会という大きな行事に向けての取り組みの中で、多くの学びを体験して欲しいと期待しています。

保護者に皆様には、お弁当の準備や毎日の体育着のお洗濯などよろしくご協力いただきたくお願ひ致します。また、地域の方も合わせて、運動会当日の晴れ姿の陰にある、子ども達の努力に思いをはせ、励ましの声援をいただけるとうれしく思います。